

当財団理事長の五味文彦が横浜文化賞を受賞いたしました

芸術、学術、教育、社会福祉、医療、産業、スポーツ振興等の文化の発展に尽力し、その功績が顕著な方々に贈られる「第66回横浜文化賞」に当財団理事長の五味文彦が選ばれ、2017年11月16日、横浜みなとみらいホールにて贈呈式が行われました。



五味 文彦（ごみ・ふみひこ）

現在、公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事長、横浜市文化財審議会会長。横浜の文化財の保護・普及・啓発に貢献し続けている。1990年より横浜市歴史博物館（1995年開館）の展示室の構想委員として、展示空間の基本コンセプトをつくった。東京大学名誉教授。

日本歴史学、歴史教育、文化財行政における日本を代表する研究者であり有識者。史学会理事長や人間文化研究機構理事など、日本のアカデミズムの要職を歴任。

代表作『院政期社会の研究』（1984年）で中世史研究者としての地位を確立。その後、文学作品や絵画、考古資料などを素材に、中世のみならず日本の歴史を学際的な視点で捉えなおし、現在も精力的に著書を発表し続けている。

（おもな受賞歴）

1991年 サントリー学芸賞（『中世のことばと絵』）

2004年 角川源義賞（『書物の中世史』）

2016年 毎日出版文化賞（『現代語訳 吾妻鏡』）

受賞のコメント

この度の受賞、誠に光栄に存じます。横浜との関わりは、横浜市歴史博物館の設立にともなって展示構想委員となってからですから、もう20年以上になりましょうか。その後も博物館の経営に関わるとともに、文化財保護委員として横浜の文化の保存・保護・啓発につとめてまいりました。

私の専門は日本の中世史ですが、横浜の歴史について考えるうちにその対象が広がり、日本の古代から近代にかけての歴史に及ぶようになって、横浜を対象とする『日本史の中の横浜』を出版し、今は日本の通史を書き日本の各地域の歴史的な魅力を語っています。

横浜は私の実践的な歴史学を育ててくれた土地でもありまして、感謝の気持ちでいっぱいです。この受賞を契機にさらに横浜の文化の発展に心を注ぎ、その魅力を語ってゆきたいと考えています。